

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號五第 卷四第

行發日一月五年六正大

論說

經濟的行爲と道德的行爲との關係(一)……………法學博士 田島錦治

奢侈税ノ辯難……………法學博士 神戸正雄

きんぐノ法則ト米麥價……………法學士 河田嗣郎

經濟心理學ノ組織の研究(四、完)……………法學士 米田庄太郎

支那經濟思想ノ出發點(二、完)……………法文學士 小島祐馬

時事問題

貿易ニ對スル金融ノ改善……………法學博士 戸田海市

支那關稅引上ト日本ノ紡績業……………法學博士 神戸正雄

雜錄

米國ノ海外放資力……………法學博士 神戸正雄

獨領植民地ノ處分問題……………法學博士 山本美越乃

移民ト米國ノ勞働……………法學士 米田庄太郎

米國聯邦農地貸附法……………法學士 河田嗣郎

時事問題

貿易ニ對スル金融ノ改善

戸田 海市

輸出貿易就中後進國ニ對スル輸出貿易ヲ戰爭中ニ成ルヘク多ク増進セシメ、又其ノ戰爭中ニ占メ得タル地步ヲ戰後ニ於テ先進國ノ競爭ニ對シ成ルヘク多ク維持スル爲メニハ生産上ノ改良ヲ行ヒ、特ニ生産ノ規模ヲ大ニシテ品質ノ確實整一ト生産費ノ減少トヲ圖ルコトカ最モ重要テアルガ、此ノ如キ改良ハ急速ニ行ハレ難キ事情カアル。今日我國ノ貿易上ノ利器ハ自國ノ支配シ得ヘキ商船ヲ有スルコトト貨幣資本ノ潤澤ナルコトトテアル。故ニ此際船腹及資金ノ利用ニ付テハ最モ注意ヲ拂ハテハナラヌ。特ニ戰爭カ永ク繼續スルニ從ヒ交戰諸國ノ財力ノ減耗カ日ニ著シクナツテ大規模ノ輸入禁止カ行ハレ、又輸入税ノ増加ヲ行フ所モアリ、之カ爲メ軍需品及生活必要品ノ輸出能力ノ比較的ニ乏シキ我國ハ輸出ノ上ニ重大ノ打撃ヲ蒙ルコトトナルカラ、今後ハ後進國ニ對スル輸出増進ノ爲メ船腹及資金ノ利用策ヲ講スルノ必要ヲ特ニ痛切ニ感スルノテアル。以下少シ

ク輸出貿易ニ對スル金融ノ改善ニ付テ見テ述ヘテ見タイ

歐洲交戰諸國ハ必需品ノ輸入禁止ヲ行フタ爲メ、今後我國ヨリ之ニ對スル輸出ハ軍需品及生活必需品ヲ主トスルコトナルガ、戰後ニ此種ノ貨物カ依然對歐輸出ノ増加ヲ繼續スルコトハ困難テアルニ反シ、東洋南洋等ノ後進國ニ對スル輸出ハ工業品ヲ主トスル故、今後多々益之ヲ増進スルノ必要カアルト同時ニ其ノ可能モアル。只タ此等後進國民ハ一體ニ經濟幼稚ニシテ其購買力ノ乏シキ上ニ、工業ノ進歩セル米國ヤ我國ノ如ク急激ニ交戰國ニ對シテ輸出ヲ増加スルコトニ由リ、其ノ購買力ヲ増進シ得ル程度モ少ナイ。故ニ我國カ此等後進國ニ對シテ輸出ヲ増加セントスレハ、先ツ消極的ニ我國ノ物價ノ急激ニ騰貴スルコトヲ防キ、積極的ニハ此等後進國民ノ購買力ヲ増加スルノ方法ヲ講セテハナラヌ。多大ノ輸出超過ノ爲メ通貨ノ膨脹ヲ促カシツ、アル我國ニ於テ物價ノ騰貴ヲ防クニハ、到底生産ノ増進ノミニ由ルコトカ困難テアルカラ、一方ニハ外國ヨリ受入レタル正貨ヲ再ヒ外國ニ於テ利用シ、以テ通貨ノ過大ノ膨脹ヲ制スルコトヲ必要トスルノテアルガ、今日マテ海外投資ハ殆ント全部交戰國ニ對スル償還又ハ貸付ケニ限ラレタ。然ルニ後進國ニ對スル投資ハ消極的ニ我物價ノ騰貴ヲ防クト同時ニ、積極的ニ後進國民ノ購買力ヲ増加シテ我輸出品ニ對スル需用ヲ増進スルノ利益カアルニ係ハラヌ、今日マテ之ニ對スル投資ノ行ハレタコトカ甚タ少ナイ、是ニハ種々ノ原因モアルカ、一ハ從來我國ノ資本家カ海外投資ト云ヘハ外

國政府ニ貸付ヲ行フトカ又ハ外國ニ事業ヲ起スト云フカ如ク、長期ニ亘ツテ資本ヲ固定スルノ方法ノミヲ重要視シタ爲メテアル

我國カ後進國ノ政府ニ對シテ貸付ケルト云ヘハ實際ニハ支那政府ニ對スル貸付ケテアルガ、是ニハ列國ト共同スルノ制限カアルノミナラス、政治上複雑ナル事情ノ爲メ其實行ニ付テ種々ノ障礙カ存在スルト同時ニ、東洋ノ永遠ノ平和ノ爲メニハ妄リニ支那政府ニ資本ヲ貸付ケルコトハ不得策テアル。又後進國ニ於テ事業ヲ起スコトニ付テハ、我實業家ノ海外起業ノ經驗ノ乏シキニ加ヘテ、其投資者ハ國內事業ニ投資スル場合ト異リ、後日資金ノ必要ノ起ツタ際ニ其事業又ハ之ヲ代表スル有價證券ヲ市場ニ賣放チテ資金ヲ回收スルコトカ甚タ困難テアル。何トナレハ我國ノ資本家階級ハ外國事業證券ヲ殆ント需用シナイカラテアル。我金融市場ニ於テ巨額ノ外國有價證券ノ需用ヲ見タノハ、今次ノ戰爭ニ關係シテ露國及英國ノ公債ノ引受又ハ買入ノ行ハレタコトヲ以テ初メトスルノテアルガ、此等ノ有價證券ハ大國ノ發行シタモノテアツテ又其期限モ短カク、加フルニ日本銀行カ金融上之ヲ我國債ニ準シテ取扱フカ如キ保護ヲ與ヘタ爲メ、我資本家ノ需用ヲ見ルニ至ツタノテアル。今日我國ノ外國事業ニ對スル投資ハ有ナル個人企業家カ其資本ノ過剰ヲ有利ニ運用スル爲メカ、又ハ其ノ國內ニ經營セル自己ノ事業ヲ有利ナラシムル爲メ、例ヘハ其國內事業ノ需用スル原料ヲ有利ニ得ル爲メ外國ニ原料生産業ヲ起スト云フカ如キ場合ニ行ハレルコ

トカ普通テアツテ、未タ汎ク一般公衆ノ資金ヲ集メテ之ヲ海外事業ニ投下シ、即チ海外事業ヲ代表スル有價證券ヲ汎ク國內金融市場ニ賣出スカ如キ方法ハ行ハレ難イ、我國ノ海外投資ハ未タ個人投資ノ時代ヲ脱シテ公衆投資ノ時代ニ入ラナイカラ、其投資起業ノ行ハレ得ル程度モ頗フル僅少テアルコトヲ免レナイ

二

後進國ニ於テ事業ヲ起ス爲メニ資本ヲ投下スルコトハ、此ノ如ク今日ノ我國ニ取ツテハ困難ナ事業テアル。歐洲戰爭ノ初マツテ以來我國ニハ舊事業ノ擴張ト共ニ新事業ノ勃興モ可ナリ盛ンニ行ハレタガ、若シ戰後ニモ幸ニ此等ノ國內事業カ繁榮スルナラハ、之カ爲メ國內ニ資本ヲ需用スルコトハ戰前ニ比シテ大ニ増加スルニ反シ、今日ノ如キ多大ノ輸出超過ハ到底戰後マテ維持スルコトハ出來ス、又外資ヲ輸入スルコトハ殆ント絶望テアル。故ニ戰後ニ於ケル我國ノ海外投資力ハ多少戰前ニ比較シテ増加スルトシテモ、其程度ハ決シテ大ナルモノテハナイ。是レ予輩カ汎ク諸般ノ海外事業ニ投資スル爲メ特別ノ銀行ヲ設立シ、特ニ國家カ之ニ對シ何等カノ保護ヲ加ヘテ國內ノ資本ヲ海外ニ放出スルコトヲ助クルノ制度ヲ設クヘシトノ說ニ對シテ疑ヲ懷ク所以テアル。外國ノ事業ニ投資シテ其國民ノ購買力ヲ増加シ、以テ之ニ對スル我輸出ヲ増加スルカ爲メニハ、其投資額カ頗フル巨大テアルカ、又ハ投資シタ事業ニ要スル所ノ機械建築材料等ヲ我國ヨリ供給

スル能力ノ大ナルコトヲ必要トスル。戰前ニ支那ハ年々一億内外ノ外資ヲ輸入シタ爲メニ支那人一般ノ購買力カ増加シ、其結果革命ノ勃興ヤ亂民ノ蜂起カ屢アツテ支那社會ノ秩序カ擾亂セラレタニ係ハラズ、我國ノ對支輸出ハ常ニ順調ヲ呈シタト云フ事實ヲ見テモ、後進國民ノ購買力増加ノ爲メニ外資輸入カ如何ニ有効ナルカハ明カテアルガ、今日ノ我國ハ獨力ヲ以テ此ノ如キ巨額ノ資本ヲ支那其他ノ後進國ノ事業ニ固定スルノ餘裕ハナイ。又從來歐洲先進國カ年々巨額ノ海外投資ヲ行フタノハ、必シモ獨リ貯蓄ノ増加ニ由リ國內ノ金利カ大ニ低落スル爲メ、之ヲ海外ニ於テ一層高利ニ運用スルノ必要ニ迫ラレタカラテハナク、之ト同時ニ海外ニ事業ヲ起シテ之ニ要スル所ノ機械ヤ材料ヤ技術者ヲモ自國ヨリ供給シ、即チ海外投資ニ由テ直接ニ自國生産物ニ對シテ有利ノ販路ヲ開拓スルノ利益カ頗フル大ナルカ爲メテアツタ。然ルニ我國ノ工業中最モ發達セルハ織緯工業テアツテ金屬工業ハ甚タ幼稚デアリ、之カ爲メ鐵道鑛山工場等ノ建設運轉ニ必要ナル機械ヤ材料ノ多クハ今尙ホ先進國ノ輸入ニ待ツノ必要カアル。現ニ戰爭ニ由リ此種ノ貨物ノ輸入カ殆ント不能トナツタ爲メ、今日ハ國內ニ事業ヲ起スコトモ甚タ困難トナツテ居ル有様テアル。故ニ我國ハ海外ノ事業ニ投資スルコトニ由リ我國ノ輸出ヲ増進セシムルコトモ甚タ困難テアル。今日我國ノ海外事業投資ニシテ比較的有利ニ行ハレ得ルハ、國內ノ工業ニ要スル原料生産ノ事業ヲ起シ、又ハ我國ノ海外移民ヲ利用スルノ事業ヲ起ス場合テアル。

海外投資ト云ヘハ決シテ外國政府ニ貸付ヲ爲シ、又ハ外國ノ事業ニ資本ヲ固定スルコトニ限ラレテ居ナイ。我國ノ輸出品ニ對スル外國ノ需用者就中後進國ノ需用者ニ其代金支拂ノ延期ヲ認め、即チ之ニ掛ケ賣ヲ爲スコトモ海外投資ノ重要ナル一方法テアツテ、今後ノ我國ハ特ニ此種ノ海外投資ニ付テ努力スルノ必要アルト同時ニ、又之ヲ行フノ能力モ相當ニ存在スル。先ツ我輸出工業品ニ取ツテ重要ノ得意タル後進國民ノ經濟狀態ヲ見ルニ、何レモ農業經濟ノ時代ニ在ルモノテアリ、從ツテ商工業的國民ノ如ク不斷ノ現金收入ヲ有セス、一年一回又ハ二回ノ收穫ニ由テ得タル收入ヲ以テ輸入工業品ヲ購買スル者テアル。故ニ彼等ニ對シテ販賣高ヲ増加セントスレハ半年又ハ一年ノ掛ケ賣ヲ行ハネハナラス。固ヨリ今日後進國ノ輸入商問屋業者等カ其内地ニ輸入品ヲ販賣スルニ付テハ多ク掛ケ賣ノ方法ヲ行ヒツ、アルガ、併シ本來資本ノ乏シキ後進國ノ輸入商等カ今日ノ如ク我工業品ニ對シテハ現金ヲ拂ヒ、之ヲ内地ニ販賣スルニハ多ク掛ケ賣ヲ以テスルノ能力ハ狭ク限ラレテ居ルカラ、今後一層我輸出ヲ増進セントスレハ、我國自カラ掛ケ賣ノ方法ヲ採リ、即チ後進國ニ對シ比較的短期ノ商業投資ヲ行ハネハナラス。輓近獨逸カ世界市場ニ大發展ヲ爲シタ重要原因ノ一ハ後進國民ニ對シテ盛ンニ掛ケ賣ヲ行フタカラテアルコトハ世間周知ノ事實テアルガ、今後ノ我國ニ取リ此種ノ海外投資ハ特ニ重要ノ意義ヲ有スル

海外事業ニ資本ヲ固定スルコトニ由テ我輸出品ニ對スル外國ノ需用ヲ増加スル程度ハ、我國ヨリ其事業ニ要スル機械材料等ヲ供給スル場合ト雖モ、投資額ノ全部ニ達スルヲ得サルニ反シ、掛ケ賣ニ由テ輸出ヲ爲ス場合ニハ、投資額ノ全部カ我輸出品ノ需用ニ向ケラレルノテアル。又抽象的ニ云ヘハ海外投資ハ國內投資ニ比シテ危險多シト云ヒ得ルテアラウガ、其代リニ金利ノ高キ後進國ニ對スル投資ハ國內投資ヨリモ一層有利ナルノミナラス、今日ノ如ク我貿易カ巨額ノ輸出超過ヲ示シテ正貨流入ノ勢ノ大ナルニ反シ、機械材料等ノ輸入ノ不能ナル爲メ國內ニ於テ有利ニ事業ヲ起スヲ得サル場合ニハ、之ヲ自然ニ放任スレハ資金ノ多クハ危險極マル投機取引ニ注入セラレ、海外投資ヨリモ遙カニ投資者ノ地位ヲ不安ニ陥ラシメル。而シテ海外投資ノ方法トシテ起業ノ爲メニ資本ヲ固定スル場合ニハ、後日我國ニ於テ資本ノ必要ノ生シタトキ之ヲ回收スルコトカ甚タ困難テアルニ反シ、掛ケ賣ニ因ル海外投資ハ其回收カ容易テアル。我國ガ戦後ニ於テモ年々巨額ノ資本ヲ海外ニ放出スルノ餘裕カアルナラハ、今日ノ餘裕ヲ相當ニ海外事業ニ固定シテモ安全テアルガ、既ニ述ヘシ如ク戦後ニ我國ノ資本カ多大ノ餘裕ヲ生スルコト難シトスレハ、掛ケ賣ニ由ル海外投資ヲ以テ有利トセハナラス。尙ホ海外事業ニ資本ヲ投下スルニ付テハ外國政府ノ制限的制度ヤ外國民ノ反對カ起ツテ、投資ノ好機會ヲ見出スコトノ困難ナル場合少ナカラサルニ反シ、掛ケ賣ニ由ル海外投資ハ我國ノ當業者ノ意思ト都合トニ由テ決定シ得ル範圍カ大テアル

四

後進國ニ對シ掛ケ賣ニ由テ輸出ヲ増進スルニハ、其生産者及輸出商ト銀行トノ協力ヲ必要トスル。歐洲戰爭ハ諸般ノ我生産物ニ對シテ急激ニ海外ノ需用ヲ増加シ、之カ爲メ我生産能力ニ相當ナル多額ノ注文ヲ引受ケ、當業者ハ今日マテハ輸出販賣ニ付テ別段ノ苦心ヲ爲スノ必要ニ迫ラレカカツタ。是レ今日マテ當業者カ資力ノ不足ヲ告ケサルニ係ハラス進ンテ掛ケ賣ヲ行ヒ、以テ一層販路ヲ擴張スルコトニ努メサリシ所以テアル。然ルニ一方我生産能力ハ漸次増大スルニ反シ、他方交戰諸國ハ戰爭ノ繼續スルニ從フテ購買力ノ減少ヲ來タシ、特ニ大規模ノ輸入禁止ヲ斷行シテ我輸出ニ打撃ヲ加ヘ、南洋南米ノ方面ニ於テモ生活必需品及軍需品ノ輸出ノ多大ナルニ比シテ其生産ノ増進カ之ニ伴ハサリシ爲メ次第ニ國民ノ生活上ニ缺乏ヲ生シ、遂ニ其輸出ノ禁止ヲ行ハントスルノ傾向ヲ生シテ來タカラ、今後ノ我輸出就中戰爭ニ關係少ナキ工業品ノ輸出ハ今日マテノ如ク順調ニ行ハレ難クナル。從ツテ又今日マテ掛ケ賣ノ實行ニ躊躇シツツアツタ當業者モ之ヲ實行スルノ必要ヲ感スルニ至ルテアラウ

從來我國ノ銀行ニシテ直接ニ貿易金融ノ局ニ當リシモノハ殆ント正金及臺灣兩銀行ニ限ラレテ居タ爲メニ貿易ノ發展カ充分ニ行ハレ難カツタガ、最近ニ至リ重要ノ普通銀行カ次第ニ貿易金融ノ方面ニ業務ヲ擴張スルニ至ツタ、是レ從來國內金融ノミニ没頭セシ銀行界カ對外投資ニ着眼スル

ニ至ツタコトヲ示スモノテアツテ、一ハ國內ノ資金ニ過剩ヲ生スルニ至ツタ爲メテモアルガ、一ハ又銀行界ノ覺醒ニ由ルモノテアル。吾人ハ今後普通銀行カ汎ク貿易金融ニモ其業務ヲ擴張スルコトヲ希望スルノテアルガ、之ト同時ニ此種金融ノ局ニ當ル特種及普通ノ銀行カ今後ハ大ニ長期ノ融通ヲ爲シテ掛ケ賣ニ由ル輸出ノ増進ヲ助長スルコトヲ希望セサルヲ得ナイ。只タ銀行カ如何ニシテ半年又ハ一年ニ亘ル融通ヲ爲スニ要スル所ノ長期ノ資金ヲ獲得スヘキヤノ問題ヲ解決スルコトハ必シモ容易ナイガ、此問題ヲ研究スル前ニ我國ノ商業銀行カ比較的長期ノ資金ヲ多ク所有スルコトカ果シテ適當ナリヤ否ヤヲ一考セテハナラヌ

我國ノ銀行ハ大體英國流ニ倣フテ預金ノ引受ニ由リ營業資金ヲ得ル方針ノ下ニ發達シ來タツモノテアル。故ニ今日急激ニ我銀行ノ組織ヲ改メテ流動的ナル商業金融ト共ニ資本ノ固定ヲ必要トスル工業金融ヲ兼營スル所ノ獨逸流ニ移ルコトハ非常ノ難事テアリ、又甚タ危險アアル。獨逸ニ於ケル兼營主義ノ發達ニハ種々特有ノ事情カ存在シタノテアツテ、我國カ一朝ニシテ此主義ニ移ルコトハ出來ナイガ、本來資本ノ乏シキ我國ニ於テ工業及貿易ヲ發達セシムル爲メニハ、我銀行組織ニ幾分カツツ獨逸流ヲ加味シテ進ムコトノ必要アルハ爭ハレナイ。以前ニ我銀行カ一般ニ小規模テアツテ、個人經營ノモノモ多カツタ時代ニハ、銀行カ資本ヲ固定スルカ如キ營業ヲ爲スコトハ非常ニ危險テアツタガ、近來銀行界ニモ次第ニ集中併合ノ傾向カ現ハレ、又銀行家モ多年ノ經

驗ニ由ツテ其營業振リカ大ニ堅實トナツテ來タカラ、或程度マテ長期資本ヲ運轉スルコトハ最早
ヤ以前ノ如ク危險アハナイ。只タ其運轉ニ付テハ初メヨリ多額ノ資本固定ヲ必要トスル所ノ株式
社債ノ發行業務ニ關係スルコトニ由リ直接ニ工業投資ニ手ヲ下タスコトヲ避ケ、先ツ貿易ニ對シ
テ長期信用ヲ與ヘ、又國內ノ工業ニ融通スルニ付テモ中小工業ニ取ツテ重要ノ金融機關タル問屋
業ニ對シテ比較的長期ノ融通ヲ爲スト云フカ如ク、商業的信用ニ其活動ヲ制限スルコトカ安全テ
アル

銀行カ長期ノ貿易金融ヲ行フカ爲メニ要スル資金ヲ得ルノ方法ハ種々アル。從來我國ノ銀行預金
ニ於テ定期預金カ重要ノ地位ヲ占メ、從ツテ銀行モ實際ニハ比較的長期ノ融通ヲ行フテ農業經濟
的色彩ヲ帶ヘル國內經濟界ノ要求ヲ充タシツツアツタガ、今後貿易金融ヲ擴張スル爲メ更ニ定期
預金ノ増加ヲ圖ルコトモ一策タルヲ失ハナイ。只タ定期預金ハ往々期限中ノ引出ヲ拒ミ難キ事情
モアツテ、銀行カ之ヲ固定スルコトハ必シモ安全テナイ場合カアル。又預金者ヨリ見レハ期限内中
ニ資金ノ必要ノ生シタ場合ニ之ヲ回收スルコトカ甚タ困難テアル。經濟界ノ進歩スルニ從ヒ一般
資本家ノ資本利用ノ能力モ進歩シ、特ニ其利用カ活潑トナルカラ、長期ニ亘ル所ノ定期預金ハ今
後大ニ増加スルノ趨勢ヲ有スルモノト云ヒ難イ。故ニ貿易金融ノ擴張ノ爲メ定期預金ヲ大ニ利用
スルコトモ困難テアラウ。又頃日臺灣銀行ハ信託預金ノ制度ヲ設ケテ相當ノ成績ヲ擧ケツ、アル。

或ハ今後他ノ銀行モ此方法ヲ採用スル場合カ起ルヲアラウガ、本來我國ハ家族制度ノ尙ホ鞏固ナクコトトテ、一般事業ノ規模カ尙ホ小資本ヲ以テ經營シ得ル幼稚ノ狀態ニ在ルコト、ニ由リ、財産信託ノ制度ハ今日マテ發達シ難ク、今後モ其發達ハ頗フル遲々タルモノテアラウ。預金者ヨリ見ルハ此方法ハ中途ニ資金ノ回收ヲ不能ナラシムルモノテアルカラ、餘程高利ニアラサレハ多ク預金スルコトヲ得ナイ。要スルニ銀行カ此兩種ノ預金ニ由テ充分ニ貿易上長期融通ヲ擴張スルコトハ困難ナルカラ、此外ニ株式社債ヲ發行シテ銀行ノ長期資金ヲ造リ出スコトヲ必要トスル株式社債トハ各長短ヲ異ニスルモノテアルガ、我國ノ現狀ニ付テ云ヘハ社債ノ發行カ低利ノ資金ヲ得ルニ適當テアル。從來我國ニハ資本カ甚タ缺乏セシ爲メ、國民ノ年々ニ貯蓄セル資本ノ多クハ株式ニ投下シテ高率ノ配當ヲ受ケ得タカラ、先進國ニ於ケルカ如ク盛ンニ低利社債ヲ發行シテ事業ヲ經營スルコトカ出來ナカツタ。然ルニ今日ハ資金カ潤澤テアルト同時ニ事業ノ擴張新設カ困難テアルカラ社債ノ發行モ割合ニ容易テアル。而シテ銀行カ株式又ハ社債ニ由テ得タル資金ヲ長期ノ貿易金融ニ運用スルトキハ相當ノ收益ヲ擧クル見込カアルトハ云ヘ、本來商業金融ハ比較的ニ利益ノ薄イモノテアルカラ、成ルヘク低利ノ資金ヲ得ルノ必要カアル。特ニ戦後我國カ先進國ト競争シテ成ルヘク低利ニ後進國民ニ對スル掛ケ賣ヲ爲サントスレハ、一方ニ我銀行ハ成ルヘク有利ニ株式社債ノ發行ヲ爲シ得ネハナラス。戰爭中ニ成ルヘク後進國ニ對スル輸出ヲ擴張シ、

又戰後列國ト競争シテ貿易上ノ地位ヲ維持發展スルコトハ、國民經濟上特ニ緊要ノ事柄テアルカラ、其手段トシテ重要ノ意義ヲ有スル貿易金融ニ付キ、國家カ相當ノ保護ヲ與フルノ必要アルコトハ、尙ホ貿易上ノ重要手段タル海運業ニ付テ國家ノ保護ヲ必要トスルト異ラス。然ラハ如何ナル方法ニ由テ貿易金融ヲ保護スヘキヤト云フニ、正金、臺灣兩銀行ヲ始メ貿易金融ヲ營ム所ノ重要銀行ノ株式社債ヲ日本銀行ノ見返擔保品ニ加ヘ、其信用ヲ増加シテ流通力ヲ強メ、以テ之ヲ有利ニ發行スルコトヲ可能ナラシムルコトヲ適當トスル

五

貿易金融ヲ營ム確實ナル銀行ノ株式社債ヲ日本銀行ノ見返擔保ニ加ヘル方法ヲ探レハ、之ヲシテ有利ニ長期運轉ノ商業資金ヲ得セシムルノ効果ハアルトシテモ、若シ一部ノ論者ノ主張スルカ如ク日本銀行ノ見返擔保融通ノ制度自身カ不都合ナモノテ、早晚廢止セラルヘキ運命ヲ有スルナラハ、此策ヲ實行スルコトモ不當テアル。予輩ノ見ル所ニ由レハ今日ノ見返擔保融通ノ制度ハ決シテ不條理ナモノテナイ、只タ擔保ニ加ヘラレタル證券ノ種類ノ撰擇カ一貫ノ主義ニ由ラサル偶然的歴史的ノモノテアルカラ、今後ハ一貫ノ標準ヲ立テテ其撰擇ヲ改ムルコトカ必要テアル。英國ノ如ク世界貿易ノ中心ヲ爲ス國ニ於テハ商業銀行ノ業務ノ中商業手形ノ割引カ特ニ重要ノ地位ヲ占メ得ルノテアルガ、我國ノ如ク商業手形ノ發達ノ不充分ナ國ニ於テ有效ニ商業金融ヲ營マント

スレハ、有價證券ヲ擔保トスル融通ニ重キヲ置カネハナラス、近來ハ先進諸國ニ於テモ證券擔保ノ融通カ大ニ重要トナリツ、アル。而シテ日本銀行ハ貨幣制度ノ維持者タルト同時ニ商業金融ノ統轄者デアツテ、此ノ金融上ノ任務ヲ完全ニ行フカ爲メニハ、自カラ個人取引ヲ開始スルコトモ必要テアルガ、一面ニハ普通銀行ノ親銀行トシテノ活動ヲ完全ニスルコトモ必要テアル。然ルニ親銀行トシテ完全ニ普通銀行ト接觸ヲ保タントスレハ、之ニ對スル金融ニ付テモ餘リニ之ト異レル方針ヲ探ルコトハ出來ナイ。特ニ日本銀行カ親銀行トシテノ活動ヲ最モ必要トスルハ平時テナク、金融界ニ變動ノ起ツタ場合テアルガ、此場合ニ親銀行トシテ遺憾ナク普通銀行ヲ援助セントスレハ、普通銀行ノ資産ノ重要部分ヲ爲ス所ノ有價證券ヲ度外視スルコトハ出來ナイ。固ヨリ見返擔保制度ヲ存置スレハトテ、之ニ由テ實際ニ融通ヲ行フニ方ツテハ慎重ノ態度ヲ失フテハナラス。特ニ日本銀行カ個人取引ヲ開始シタ場合ニ見返擔保制度ヲ汎ク適用スルカ如キハ當ヲ得ナイガ、併シ日本銀行ノ態度ヲ慎重ナラシムル爲メニ見返擔保制度ヲ廢止スルコトハ極端ニ過キル世間或ハ日本銀行ノ見返擔保制度ヲ廢シ、日本興業銀行ヲシテ證券擔保ノ金融ニ當ラシムヘシトノ論カアル。日本興業銀行カ大ニ實力ヲ養フテ證券擔保ノ金融ニ力ヲ注クコトニ付テハ固ヨリ異存ハナイガ、其活動ヲ助クル爲メニ日本銀行ノ見返擔保融通ヲ廢止セシムルコトハ、必要ヲ見サルノミナラス、有害テアル。日本興業銀行ハ此種ノ金融ニ付キ獨立シテ全然日本銀行ニ代リ充分ノ

活動ヲ爲スコトハ不能テアル。特ニ此種ノ金融ノ特ニ重要トナルハ金融界ノ變動ノ生シタ場合ニアルガ、日本興業銀行ハ日本銀行ノ如ク臨時ニ兌換券ヲ増發シテ金融界ノ混亂ヲ鎮靜スルコトカ出來ナイ。故ニ日本興業銀行カ此方面ニ完全ノ作用ヲ爲サントスレハ、矢張り日本銀行ヲ親銀行トセテハナラヌ。又日本銀行カ親銀行トシテ完全ニ任務ヲ果タサントスレハ、矢張り此場合ニモ見返擔保制度ヲ存置シテ之ニ由リ活動スルコトヲ有利トスル。故ニ論者ノ主張ハ屋上屋ヲ架セントスルモノデアル。之カ爲メ日本銀行ノ貨幣制度維持者トシテノ地位カ別段鞏固トナルノ利益ナク、一面ニハ徒ラニ機關ヲ複雑ニシテ金融ノ圓滑ヲ妨ケ、特ニ金融界ニ變動ノ起リシ場合ニ必要トスル所ノ機敏ノ活動ヲ妨クルコトトナルニ過キナイ

現行ノ見返擔保制度ヲ維持スルコトハ正當テアルガ、擔保品ノ種類ニ付テハ一貫ノ標準ヲ立テ、選擇ヲ改メテハナラヌ。其標準ハ云フ迄モナク一方ニハ確實ニシテ價格ノ變動少ナキモノデアルコトヲ必要トシ、他方ニハ汎ク金融界ニ流通シ、從ツテ汎ク融通ヲ爲スノ手段トシテ有效ナルト同時ニ擔保流レトナツタ場合ニ其處分ノ容易ナモノテアルコトヲ必要トスル。近頃世間ニハ大ニ見返擔保制度ヲ擴張スヘシト論スル者カアツテ、其趣意ハ二様ニ解セラレル。一ハ現在ノ見返擔保品ノ選擇ノ偶然的非合理的ナルヲ改ムヘシト云フノテアルガ、此意味ヨリスレハ擔保制度ノ擴張ナル詞ハ穩當テナイ。他ノ一ハ日本銀行ハ實際大ニ此種ノ金融ヲ擴張スヘシト云フノテアツテ、

或ハ其ノ爲メニ日本銀行ノ資力ヲ増加スル目的ヲ以テ保證準備發行制限ヲ寬大ニスヘシトノ論モアル。今日ハ確實ニシテ流通力ノ大ナル有價證券カ大ニ増加シテ居ルカラ、現在ノ見返擔保品ノ選擇ヲ合理的ニ整理スレハ事實上擔保品ノ範圍カ擴張セラレル結果トナルテアラウガ、其擴張ノ結果ヲ生シタレハトテ、今日直チニ見返擔保ニ由ル融通ヲモ大ニ擴張スルノ必要ハ全然存在シナイ。今日ノ我國ハ通貨ノ膨脹ト金融ノ緩慢トニ苦シミツ、アル故、此際保證準備發行額ヲ増加スルノ必要モナイ。見返擔保品ノ選擇ヲ改ムルニハ上述ノ如ク一般金融ノ統轄調節上妥當トスル標準ヲ立ツヘキハ勿論テアルガ、正金臺灣兩銀行ヲ初メ近頃貿易金融ニ手ヲ下タスニ至リシ大銀行ノ株式社債ハ當然此標準ニ合スル擔保品ト認メテ差支ナイ。日本銀行カ見返擔保制度ヲ整理スルニ付キ抽象的ノ標準ヲ立テルコトハ必シモ難事テアルマイガ、更ニ其標準ニ由リ具體的ニ擔保證券ヲ撰定スルコトハ甚ダ難事業テアツテ容易ニ進捗シナイテアラウ。然ルニ貿易金融ノ改善ハ刻下ノ急務テアルカラ。吾人ハ此際日本銀行カ貿易金融ニ關係ヲ有スル有力銀行ノ株式社債ヲ特ニ擔保品ニ選定スルコトヲ聲明シ、以テ速カニ貿易金融ノ改善ノ實行ヲ促カサンコトヲ切望セサルヲ得ナイ